

加工・業務用途向け寒玉系キャベツの栽培法

【1 成果の概要】

近年、需要が高まってきている加工・業務用途向けの寒玉系キャベツについて、定植時期別の好適品種等について検討しましたので紹介します。

○加工・業務用に適する寒玉系キャベツの作型別好適品種とその特性は以下のとおりです。

作型	品種	定植～ 収穫日数	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
5月 定植	きよはる 初恋 さつき女王	70～80	○			●																		
		70～80																						
		70～80																						
6月 定植	涼音 輝吉 秀秋 おきな	75～85				○			●															
		75～85																						
		70～80																						
7月 定植	涼音 輝吉 秀秋	75～85																						
		75～85																						
		75～85																						

○：は種 ●：定植 □：収穫

作型	品種	特性
5月 定植	きよはる 初恋 さつき女王	肥大性良好、障害球少ない 肥大性良好、肥大が早い、裂球(在圃期間)に注意 肥大性良好、裂球(在圃期間)に注意
6月 定植	涼音 輝吉 秀秋 おきな	肥大性良好、障害球少ない、肥大やや遅め 肥大性良好、障害球少ない、肥大やや遅め 肥大性良好、肥大が早い、急激な肥大で球内部の褐変が発生する場合あり 肥大性良好、障害球少ない
7月 定植	涼音 輝吉 秀秋	肥大性良好、障害球少ない 肥大性良好、障害球少ない 肥大性良好、急激な肥大で球内部の褐変が発生する場合あり

【2 効果】

加工・業務用途向け寒玉系キャベツの安定栽培が可能となります。

【3 留意事項】

- 定植期の晩限は7月第6半旬です。やむを得ず8月第1半旬の定植となった場合には、基肥窒素量を2～3割増にすることで目標とする球重(2kg)を確保できます。
- 定植後日数が長くなると、病害虫の発生が懸念されるので、状況に応じて防除を延長して実施します。
- 好適品種は、肥大性が良好で、球内部の褐変(通称:まきこみ)や裂球等の障害の少ないものを選定しています。
- 本試験では、現地慣行として栽植距離:条間60cm、株間33cm、施肥量(成分kg/10a):窒素-リン酸-カリ=21-23.8-21で実施しています。

【4 適応対象】

- 地帯 県中北部
- 対象者 営農指導者(農業普及員等)

担当研究室 県北農業研究所 園芸研究室

〒028-6222 軽米町山内23-9-1 TEL. 0195-47-1074 FAX. 0195-49-3011